

## 令和2年度 九州工業大学2次試験前期日程(数学問題)

工学部・情報工学部 令和2年2月25日

- 数I・II・III・A・B (120分)

1  $xy$  平面上の曲線  $C: y = 2 \log x$  と, 実数  $a$  によって定まる曲線  $D: y = x^2 + a$  を考える. 曲線  $C$  と曲線  $D$  は点  $P(p, q)$  を通り, 点  $P$  における共通の接線  $l$  をもつ. 次に答えよ.

- (1) 点  $P$  の座標  $(p, q)$ , 実数  $a$  の値, および接線  $l$  の方程式をそれぞれ求めよ.
- (2) 曲線  $C$  と曲線  $D$ , および直線  $x = t$  ( $0 < t < p$ ) で囲まれた領域の面積  $S(t)$  を  $t$  を用いて表せ. また,  $\lim_{t \rightarrow +0} S(t)$  を求めよ. ただし, 必要ならば  $\lim_{x \rightarrow \infty} \frac{\log x}{x} = 0$  が成り立つことを用いてもよい.
- (3) 曲線  $C$  と曲線  $D$ , および直線  $x = t$  ( $t > p$ ) で囲まれた領域の面積  $T(t)$  を  $t$  を用いて表せ. また, 関数  $f(t) = \frac{T(t)}{t^3}$  は区間  $t > p$  で増加することを示せ.

2  $xy$  平面上の点  $A(0, -\pi)$ , 点  $B(0, \pi)$ , および動点  $P$  を考える. 動点  $P$  は時刻  $0$  では点  $A$  にある. 時刻  $t$  における動点  $P$  の座標を  $(x(t), y(t))$  とすると, 動点  $P$  の速度  $\vec{v} = \left( \frac{dx}{dt}, \frac{dy}{dt} \right)$  は,

$$y(t) \leq 0 \text{ のとき } \vec{v} = (a \cos b + \sin y(t), a \sin b)$$

$$y(t) > 0 \text{ のとき } \vec{v} = \left( 0, \frac{1}{2\pi b} \right)$$

で与えられる. ただし, 実数  $a, b$  は  $a > 0, 0 < b < \frac{\pi}{2}$  をみたす. 次に答えよ.

- (1) 動点  $P$  が点  $A$  から  $x$  軸上の点に到達するまでの間の  $y(t)$  を  $t, a, b$  を用いて表せ.
- (2) 動点  $P$  が点  $A$  から  $x$  軸上の点に到達するまでの間の  $x(t)$  を  $t, a, b$  を用いて表せ.
- (3) 動点  $P$  が原点  $O$  に到達するためにみたすべき条件を  $a$  と  $b$  を用いて表せ.
- (4) 動点  $P$  が時刻  $T$  に点  $B$  に到達した. 時刻  $T$  を  $b$  を用いて表せ. また,  $T$  の最小値とそのときの  $b$  を求めよ.

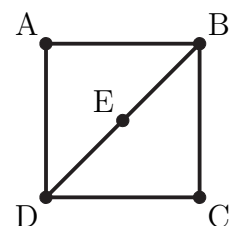
**3**  $\alpha, \beta$  は定められた複素数とする．複素数平面上の点  $z_1$  に対して，  
 $z_n$  ( $n = 2, 3, 4, \dots$ ) を以下の規則によって定める．

$$\text{(規則)} \quad z_n = \alpha z_{n-1} + \beta$$

点  $z_1$  として  $z_1 = 3\sqrt{3} - 3i$  を選び，この規則を用いて  $z_2, z_3$  を定めたところ，  
 $z_2 = \frac{3\sqrt{3}}{2} + \frac{3}{2}i, z_3 = 3i$  となった．次に答えよ．

- (1)  $z_1$  と  $z_2$  を通る直線と， $z_2$  と  $z_3$  を通る直線を考える．この2直線のなす角  $\theta$  ( $0 \leq \theta \leq \frac{\pi}{2}$ ) を求めよ．
- (2)  $\alpha$  と  $\beta$  を求めよ．また，それぞれの絶対値，偏角も求めよ．
- (3) 規則に示した  $z_n$  と  $z_{n-1}$  の関係を  $z_n - \gamma = \alpha(z_{n-1} - \gamma)$  と表す． $\gamma$  を求めよ．
- (4)  $z_n$  を  $z_1, \alpha$  および (3) の  $\gamma$  を用いて表せ．ただし， $z_1, \alpha$  および  $\gamma$  は記号のまま表せ．
- (5) 複素数平面上の点  $z_1$  を選びなおし，規則を用いて  $z_5$  を定めなおす． $z_5$  が  $|z_5| < 1$  をみたすために  $z_1$  がみたすべき条件を求めよ．また，その条件をみたす点  $z_1$  の全体の表す図形を複素数平面上に図示せよ．

- 4 右図のように，正方形 ABCD があり，対角線 BD の中点を E とする．時刻  $n = 0$  において，点 P は頂点 A であり，点 Q は頂点 C にある．時刻  $n = 1, 2, 3, \dots$  における点 P と点 Q の位置は，次の移動規則によって定まる．



- 点 P の移動規則

時刻  $n - 1$  における点 P の位置が頂点 A のときは，それぞれ  $\frac{1}{2}$  の確率で頂点 B か頂点 D に移動する．頂点 B または頂点 D のときは，それぞれ  $\frac{1}{2}$  の確率で頂点 A か頂点 C に移動する．頂点 C のときは，移動せずそのままとどまる．

- 点 Q の移動規則

時刻  $n - 1$  における点 Q の位置が頂点 C のときは，それぞれ  $\frac{1}{3}$  の確率で頂点 B に移動するか頂点 D に移動するか移動せずそのままとどまる．頂点 B または頂点 D のときは，それぞれ  $\frac{1}{3}$  の確率で頂点 A に移動するか点 E に移動するか移動せずそのままとどまる．頂点 A または点 E のときは，移動せずそのままとどまる．

次に答えよ．

- (1) 時刻  $n = 4$  における点 P の位置が頂点 C である確率を求めよ．
- (2) 時刻  $n$  における点 Q の位置が頂点 B である確率を求めよ．
- (3) 時刻  $n$  において，はじめて点 Q の位置が頂点 A となる確率を求めよ．
- (4) 時刻  $n = 4$  までに，少なくとも一度，同時刻に点 P と点 Q の位置が頂点 B となる確率を求めよ．
- (5) 時刻  $n = 4$  における点 P の位置が頂点 C であった．このとき，はじめて点 P の位置が頂点 C となった時刻より前に点 Q の位置が頂点 A となる条件付き確率を求めよ．

## 解答例

- 1 (1)  $g(x) = 2 \log x$ ,  $h(x) = x^2 + a$  とおくと  $g'(x) = \frac{2}{x}$ ,  $h'(x) = 2x$   
 2 曲線  $C_1: y = g(x)$ ,  $C_2: y = h(x)$  が, 点  $P(p, q)$  で共通接線  $l$  をもつから,  $l$  の傾きを  $m$  とすると,  $q = g(p) = h(p)$ ,  $m = g'(p) = h'(p)$  より

$$q = 2 \log p = p^2 + a, \quad m = \frac{2}{p} = 2p \quad \dots (*)$$

(\*) の第 2 式から ( $p > 0$ )  $p = 1$ ,  $m = 2$

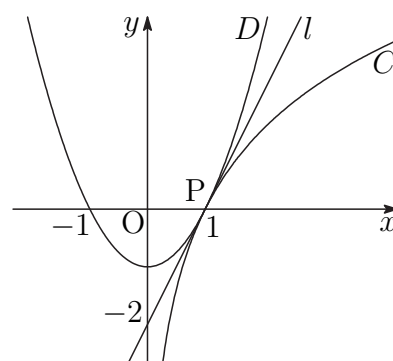
$p = 1$  を (\*) の第 1 式に代入して

$$q = 0 = 1 + a \quad \text{ゆえに} \quad a = -1$$

したがって  $P(1, 0)$

$l$  は,  $P$  を通り, 傾き 2 の直線であるから

$$y = 2(x - 1) \quad \text{すなわち} \quad y = 2x - 2$$



- (2)  $C: y = 2 \log x$ ,  $D: y = x^2 - 1$  より,  $0 < t < 1$  のとき

$$\begin{aligned} S(t) &= \int_t^1 (x^2 - 1 - 2 \log x) dx = \left[ \frac{x^3}{3} + x - 2x \log x \right]_t^1 \\ &= \frac{4}{3} - \frac{t^3}{3} - t + 2t \log t \end{aligned}$$

ここで  $\lim_{t \rightarrow +0} t \log t = \lim_{u \rightarrow \infty} \frac{1}{u} \log \frac{1}{u} = \lim_{u \rightarrow \infty} \left( -\frac{\log u}{u} \right) = 0$

よって  $\lim_{t \rightarrow +0} S(t) = \lim_{t \rightarrow +0} \left( \frac{4}{3} - \frac{t^3}{3} - t + 2t \log t \right) = \frac{4}{3}$

- (3) (2) と同様に,  $t > 1$  のとき

$$\begin{aligned} T(t) &= \int_1^t (x^2 - 1 - 2 \log x) dx = \left[ \frac{x^3}{3} + x - 2x \log x \right]_1^t \\ &= \frac{t^3}{3} + t - 2t \log t - \frac{4}{3}, \\ f(t) &= \frac{T(t)}{t^3} = \frac{1}{3} + \frac{1}{t^2} - \frac{2 \log t}{t^2} - \frac{4}{3t^3} \\ f'(t) &= -\frac{4}{t^3} + \frac{4 \log t}{t^3} + \frac{4}{t^4} = \frac{4}{t^3} \left( -1 + \log t + \frac{1}{t} \right) \end{aligned}$$

$$\varphi(t) = -1 + \log t + \frac{1}{t} \text{ とおくと } (t \geq 1)$$

$$\varphi'(t) = \frac{1}{t} - \frac{1}{t^2} = \frac{t-1}{t^2} > 0 \quad (t > 1)$$

$$\varphi(1) = 0 \text{ であるから } t \geq 1 \text{ において } \varphi(t) \geq 0$$

$$\text{したがって } t > 1 \text{ において } f'(t) = \frac{4\varphi(t)}{t^3} > 0$$

よって  $f(t)$  は区間  $t > 1$  で増加する

- 2 補足 与えられた条件より,  $\frac{dy}{dt} > 0$  であるから, 動点 P は  $y$  軸の正の向きに運動する.  $t = 0$  で  $A(0, -\pi)$  にあった点 P が  $t = T_1$  秒後に  $x$  軸上の点に到達するものとする, その後, P の  $x$  軸方向の速度ベクトルが  $\frac{dx}{dt} = 0$  であることから,  $y$  軸と平行な向きに等速度  $\vec{v} = \left(0, \frac{1}{2\pi b}\right)$  で運動し, 点  $B(0, \pi)$  に到達する. すなわち,  $t = T_1$  で P は原点 O を通過し, その後, P は  $y$  軸上を等速度で点 B まで運動する. OB 間の移動に要する時間を  $T_2$  とすると, P は  $t = T$  ( $T = T_1 + T_2$ ) で B に到達する.

- (1) 動点 P が点 A から  $x$  軸上の点に到達するまで,  $y$  軸方向の速度ベクトル

$$\frac{dy}{dt} = a \sin b$$

が一定であるから, これを  $t$  について積分すると

$$y(t) = at \sin b + C_1 \quad (C_1 \text{ は積分定数})$$

$$y(0) = -\pi \text{ であるから, これを上式に代入すると } C_1 = -\pi$$

$$\text{よって } y(t) = at \sin b - \pi$$

- (2) (1) の結果を  $\frac{dx}{dt} = a \cos b + \sin y(t)$  に代入すると

$$\frac{dx}{dt} = a \cos b + \sin(at \sin b - \pi) = a \cos b - \sin(at \sin b)$$

これを  $t$  について積分すると

$$x(t) = at \cos b + \frac{\cos(at \sin b)}{a \sin b} + C_2 \quad (C_2 \text{ は積分定数})$$

$$x(0) = 0 \text{ であるから, これを上式に代入すると } C_2 = -\frac{1}{a \sin b}$$

$$\text{よって } x(t) = at \cos b + \frac{\cos(at \sin b)}{a \sin b} - \frac{1}{a \sin b}$$

(3)  $t = T_1$  で原点  $O$  に到達するとき, (1), (2) の結果から

$$aT_1 \sin b - \pi = 0, \quad aT_1 \cos b - \frac{\cos(aT_1 \sin b - \pi)}{a \sin b} - \frac{1}{a \sin b} = 0$$

上の第 1 式から,  $T_1 = \frac{\pi}{a \sin b} \cdots \textcircled{1}$ . これを第 2 式に代入すると

$$\frac{\pi \cos b}{\sin b} - \frac{2}{a \sin b} = 0 \quad \text{よって} \quad a = \frac{2}{\pi \cos b}$$

(4)  $y(t)$  の符号に関係なく,  $\frac{dy}{dt} > 0$  であるから,  $A(0, -\pi)$  を出発した  $P$  が  $x$  軸を通過し, その後の  $x$  軸方向の速度ベクトルが  $\frac{dx}{dt} = 0$  であるから,  $y$  軸と平行な向きに等速度  $\vec{v} = \left(0, \frac{1}{2\pi b}\right)$  で運動し, 点  $B(0, \pi)$  に到達する. すなわち,  $t = T_1$  で  $P$  は原点  $O$  を通過し, その後,  $P$  は  $y$  軸上を等速度で点  $B$  まで運動する.  $OB$  間の移動に要する時間を  $T_2$  とすると

$$\frac{1}{2\pi b} \cdot T_2 = \pi \quad \text{ゆえに} \quad T_2 = 2\pi^2 b$$

また, (3) の結果を  $\textcircled{1}$  に代入すると

$$T_1 = \frac{\pi \cos b}{2} \cdot \frac{\pi}{\sin b} = \frac{\pi^2}{2 \tan b}$$

$$\text{よって} \quad T = T_1 + T_2 = \frac{\pi^2}{2 \tan b} + 2\pi^2 b = \pi^2 \left( \frac{1}{2 \tan b} + 2b \right)$$

$$f(b) = \frac{1}{2 \tan b} + 2b \quad \text{とおくと} \quad \left(0 < b < \frac{\pi}{2}\right)$$

$$f'(b) = -\frac{1}{2 \sin^2 b} + 2 = \frac{4 \sin^2 b - 1}{2 \sin^2 b} = \frac{(2 \sin b + 1)(2 \sin b - 1)}{2 \sin^2 b}$$

$b$	$(0)$	$\cdots$	$\frac{\pi}{6}$	$\cdots$	$\left(\frac{\pi}{2}\right)$
$f'(b)$		$-$	$0$	$+$	
$f(b)$		$\searrow$	極小	$\nearrow$	

よって,  $T$  は  $b = \frac{\pi}{6}$  のとき, 最小値  $\pi^2 f\left(\frac{\pi}{6}\right) = \pi^2 \left(\frac{\sqrt{3}}{2} + \frac{\pi}{3}\right)$  をとる.

$$\begin{aligned} \boxed{3} \quad (1) \quad z_2 - z_1 &= \frac{3\sqrt{3}}{2} + \frac{3}{2}i - (3\sqrt{3} - 3i) = -\frac{3\sqrt{3}}{2} + \frac{9}{2}i \\ &= 3\sqrt{3} \left( -\frac{1}{2} + \frac{\sqrt{3}}{2}i \right) = 3\sqrt{3} \left( \cos \frac{2\pi}{3} + i \sin \frac{2\pi}{3} \right) \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} z_3 - z_2 &= 3i - \left( \frac{3\sqrt{3}}{2} + \frac{3}{2}i \right) = -\frac{3\sqrt{3}}{2} + \frac{3}{2}i \\ &= 3 \left( -\frac{\sqrt{3}}{2} + \frac{1}{2}i \right) = 3 \left( \cos \frac{5\pi}{6} + i \sin \frac{5\pi}{6} \right) \end{aligned}$$

$$\text{ゆえに} \quad \frac{z_3 - z_2}{z_2 - z_1} = \frac{3 \left( \cos \frac{5\pi}{6} + i \sin \frac{5\pi}{6} \right)}{3\sqrt{3} \left( \cos \frac{2\pi}{3} + i \sin \frac{2\pi}{3} \right)} = \frac{1}{\sqrt{3}} \left( \cos \frac{\pi}{6} + i \sin \frac{\pi}{6} \right)$$

$$\text{よって} \quad \theta = \arg \left( \frac{z_3 - z_2}{z_2 - z_1} \right) = \frac{\pi}{6}$$

(2) 与えられた規則により  $z_2 = \alpha z_1 + \beta$ ,  $z_3 = \alpha z_2 + \beta$

$$z_1 \neq z_2 \text{ に注意してこれを解くと} \quad \alpha = \frac{z_3 - z_2}{z_2 - z_1}, \quad \beta = \frac{z_2^2 - z_1 z_3}{z_2 - z_1}$$

$$\begin{aligned} z_2^2 - z_1 z_3 &= \left( \frac{3\sqrt{3}}{2} + \frac{3}{2}i \right)^2 - (3\sqrt{3} - 3i) \cdot 3i \\ &= -\frac{9}{2} - \frac{9\sqrt{3}}{2}i = 9 \left( -\frac{1}{2} - \frac{\sqrt{3}}{2}i \right) = 9 \left( \cos \frac{4\pi}{3} + i \sin \frac{4\pi}{3} \right), \\ \frac{z_2^2 - z_1 z_3}{z_2 - z_1} &= \frac{9 \left( \cos \frac{4\pi}{3} + i \sin \frac{4\pi}{3} \right)}{3\sqrt{3} \left( \cos \frac{2\pi}{3} + i \sin \frac{2\pi}{3} \right)} = \sqrt{3} \left( \cos \frac{2\pi}{3} + i \sin \frac{2\pi}{3} \right) \end{aligned}$$

上の諸式および(1)の結果から

$$\begin{aligned} \alpha &= \frac{1}{\sqrt{3}} \left( \frac{\sqrt{3}}{2} + \frac{1}{2}i \right), \quad |\alpha| = \frac{1}{\sqrt{3}}, \quad \arg \alpha = \frac{\pi}{6}, \\ \beta &= \sqrt{3} \left( -\frac{1}{2} + \frac{\sqrt{3}}{2}i \right), \quad |\beta| = \sqrt{3}, \quad \arg \beta = \frac{2\pi}{3} \end{aligned}$$

(3)  $\gamma = \alpha\gamma + \beta \cdots$  ① とおくと, (規則) と ① との辺々の差をとると, 関係式

$$z_n - \gamma = \alpha(z_{n-1} - \gamma) \quad \cdots (*)$$

が得られるから, ① を満たす  $\gamma$  を求めればよい.

$$\gamma = \frac{\beta}{1 - \alpha}$$

$$\alpha = \frac{1}{\sqrt{3}} \left( \cos \frac{\pi}{6} + i \sin \frac{\pi}{6} \right) = \frac{1}{2} + \frac{1}{2\sqrt{3}}i \text{ より}$$

$$\begin{aligned} 1 - \alpha &= 1 - \left( \frac{1}{2} + \frac{1}{2\sqrt{3}}i \right) = \frac{1}{2} - \frac{1}{2\sqrt{3}}i \\ &= \frac{1}{\sqrt{3}} \left( \frac{\sqrt{3}}{2} - \frac{1}{2}i \right) = \frac{1}{\sqrt{3}} \left\{ \cos \left( -\frac{\pi}{6} \right) + i \sin \left( -\frac{\pi}{6} \right) \right\} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \text{よって} \quad \gamma &= \frac{\beta}{1 - \alpha} = \frac{\sqrt{3} \left( \cos \frac{2\pi}{3} + i \sin \frac{2\pi}{3} \right)}{\frac{1}{\sqrt{3}} \left\{ \cos \left( -\frac{\pi}{6} \right) + i \sin \left( -\frac{\pi}{6} \right) \right\}} \\ &= 3 \left( \cos \frac{5\pi}{6} + i \sin \frac{5\pi}{6} \right) \\ &= 3 \left( -\frac{\sqrt{3}}{2} + \frac{1}{2}i \right) \end{aligned}$$

(4) (\*) より,  $\{z_n - \gamma\}$  は初項  $z_1 - \gamma$ , 公比  $\alpha$  の等比数列であるから

$$z_n - \gamma = \alpha^{n-1}(z_1 - \gamma) \quad \text{よって} \quad z_n = \gamma + \alpha^{n-1}(z_1 - \gamma)$$



(5)  $w = \cos \frac{\pi}{6} + i \sin \frac{\pi}{6}$  とおくと, (2), (3) の結果から

$$\alpha = \frac{1}{\sqrt{3}}w, \quad \beta = \sqrt{3}w^4, \quad \gamma = 3w^5$$

(4) の結果から

$$\begin{aligned} z_5 &= \gamma + \alpha^4(z_1 - \gamma) = 3w^5 + \frac{1}{9}w^4(z_1 - 3w^5) \\ &= \frac{1}{9}w^4(z_1 + 27w - 3w^5) \end{aligned}$$

ここで

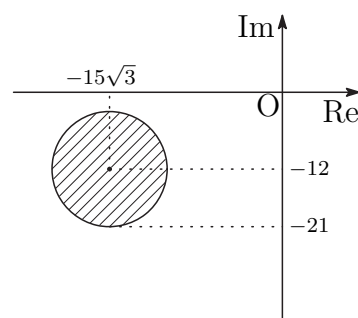
$$27w - 3w^5 = 27 \left( \frac{\sqrt{3}}{2} + \frac{1}{2}i \right) - 3 \left( -\frac{\sqrt{3}}{2} + \frac{1}{2}i \right) = 15\sqrt{3} + 12i$$

$|z_5| < 1$  より

$$\frac{1}{9}|w^4||z_1 + 27w - 3w^5| < 1$$

$$\text{ゆえに } |z_1 + 15\sqrt{3} + 12i| < 9$$

よって, 点  $z_1$  は,  $-15\sqrt{3} - 12i$  を中心とする半径 9 の円の内部にある. ただし, 境界線は含まない.

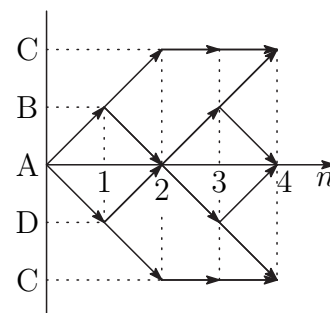


- 4 (1) 時刻  $n = 4$  において, 点 P は頂点 A または C にある.  $n = 4$  で点 P が頂点 A にある確率は

$$\left(\frac{1}{2} \cdot \frac{1}{2} + \frac{1}{2} \cdot \frac{1}{2}\right)^2 = \frac{1}{4}$$

求める確率は, この余事象の確率であるから

$$1 - \frac{1}{4} = \frac{3}{4}$$



- (2) 点 Q が時刻  $n$  で, 頂点 B, C にある確率をそれぞれ  $b_n, c_n$  とすると, 点 Q の移動規則により, 次の確率漸化式が成立する.

$$b_0 = 0, \quad c_0 = 1, \quad b_{n+1} = \frac{1}{3}b_n + \frac{1}{3}c_n, \quad c_{n+1} = \frac{1}{3}c_n$$

数列  $\{c_n\}$  は初項 1, 公比  $\frac{1}{3}$  の等比数列であるから  $c_n = \frac{1}{3^n}$

これから  $b_{n+1} = \frac{1}{3}b_n + \frac{1}{3} \cdot \frac{1}{3^n}$  したがって  $3^{n+1}b_{n+1} - 3^n b_n = 1$

$$n \geq 1 \text{ のとき } \sum_{k=0}^{n-1} (3^{k+1}b_{k+1} - 3^k b_k) = n \quad \text{ゆえに } b_n = \frac{n}{3^n}$$

$n = 0$  のときも成立するから  $b_n = \frac{n}{3^n}$

- (3) 時刻  $n$  において, 点 Q が頂点 D にある確率は, B と D の対称性により

$$b_n$$

時刻  $n$  ( $n \geq 1$ ) において, はじめて点 Q が頂点 A にある確率は, 点 Q の移動規則により

$$b_{n-1} \times \frac{1}{3} \times 2 = \frac{2(n-1)}{3^n}$$

$n = 0$  のときは, その確率は 0 であるから, 求める確率は

$$n = 0 \text{ のとき } 0, \quad n \geq 1 \text{ のとき } \frac{2(n-1)}{3^n}$$

- (4) 時刻  $n = 4$  までに、同時刻に点 P と点 Q の位置が B であるのは、1 秒後と 3 秒後である。2 点 P, Q の位置が 1 秒後, 3 秒後に B である事象を、それぞれ  $X, Y$  とすると、そのときの確率について

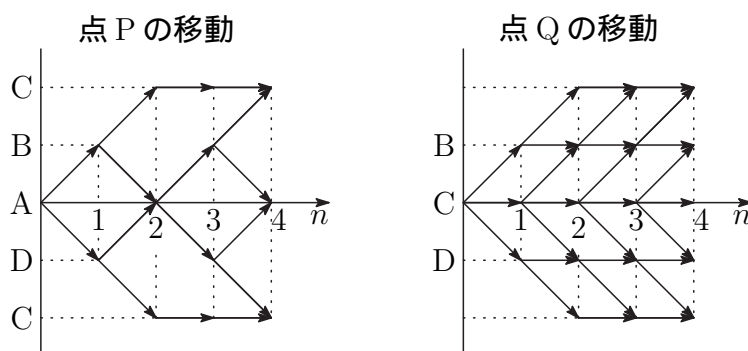
$$P(X) = \frac{1}{2}b_1 = \frac{1}{2} \cdot \frac{1}{3} = \frac{1}{6}$$

$$P(Y) = \frac{1}{4}b_3 = \frac{1}{4} \cdot \frac{1}{9} = \frac{1}{36}$$

$$P(X \cap Y) = \left(\frac{1}{2}\right)^3 \left(\frac{1}{3}\right)^3 = \frac{1}{216}$$

よって  $P(X \cup Y) = P(X) + P(Y) - P(X \cap B)$

$$= \frac{1}{6} + \frac{1}{36} - \frac{1}{216} = \frac{41}{216}$$



- (5) はじめて点 P の位置が頂点 C となるのは、2 秒後と 4 秒後であるが、2 秒後よりも前に点 Q の位置が頂点 A となることはない。4 秒後にはじめて点 P の位置が頂点 C にある確率は

$$\left(\frac{1}{2} \cdot \frac{1}{2} + \frac{1}{2} \cdot \frac{1}{2}\right) \left(\frac{1}{2} \cdot \frac{1}{2} + \frac{1}{2} \cdot \frac{1}{2}\right) = \frac{1}{4}$$

(3) で求めた確率を

$$q_n = \frac{2(n-1)}{3^n} \quad (n \geq 1)$$

とおく。4 秒後に点 P の位置が頂点 C にある事象を  $S$ 、はじめて点 P の位置が頂点 C となった時刻より前に点 Q の位置が頂点 A となる事象を  $T$  とすると、(1) の結果および上式における  $n = 2, 3$  の場合から

$$P(S) = \frac{3}{4}, \quad P(S \cap T) = \frac{1}{4}(q_2 + q_3) = \frac{1}{4} \left( \frac{2}{9} + \frac{4}{27} \right) = \frac{1}{4} \cdot \frac{10}{27}$$

よって、求める確率は  $P_S(T) = \frac{P(S \cap T)}{P(S)} = \frac{\frac{1}{4} \cdot \frac{10}{27}}{\frac{3}{4}} = \frac{10}{81}$